

無名の村を高級品の名産地に～パレスチナ西岸地区におけるオリーブ農業支援～

ーパレスチナ自治区に対する支援の評価よりー

このプロジェクトが始まるまでは、トバス県の村々は、いずれも無名な寒村であった。日本国際民間協力会（NICCO）は、ヨルダンで成功したオリーブ農家の所得向上の取組をパレスチナ西岸地域に展開するにあたって、農家が自家消費用に細々ながらオリーブを生産していたこの静かな村を選んだ。

2008～2012年にJICA 草の根技術協力（草の根パートナー型）「パレスチナ暫定自治区ヨルダン川西岸地区トバス県における環境保全型節水農業に基づいたパレスチナオリーブ製品等の品質向上と安定した地域社会の構築」、さらには2009～2012年に外務省日本NGO 連携無償資金協力「パレスチナ西岸地区におけるオリーブ害虫対策と女性グループの貧困削減」（フェーズ1～3）を活用し、まずはオリーブオイルの高品質化による農家の所得向上を目指し、さらには女性グループの所得向上を目指した家庭菜園と農産物加工品の製造販売を奨励する取組を進めた。



丘陵地帯にあるトバス村

トバス村を中心とした、トバス県で生産されるこのプロジェクトのオリーブオイルは、パレスチナ自治区におけるオリーブオイルのコンテストにおいて毎年着実に順位を上げてきており、2010年には準優勝を勝ち取り、「トバス」は高級オリーブオイルの生産地としての地位を確固たるものにした。

活動を開始した時点では、支援対象は農家の男性によるオリーブオイルの生産だけであった。その後、女性の所得向上をめざし、家庭菜園で取れた作物をビンや缶に詰めた加工品として販売する、さらにはオリーブオイルで作る石鹸などを販売するなどの活動が加わり、農村振興に係る女性の役割がますます重要に

なってきた。女性の参画に当初は戸惑いを見せていた男性達も、今では男女それぞれが農村振興に貢献し、相乗効果を発揮する状況が当然になってきた。このように、本プロジェクトは、所得向上という側面だけでなく、女性の地位向上という面においても貢献が見られた。高品質オリーブオイルの生産活動を持続的なものとするためには、オリーブ害虫対策と有機農法の定着が課題となった。これらの課題に対応するため、本プロジェクトでは低コストで設置可能なミバエ取りの「アンモニア・トラップ」の開発と導入、有機農法トレーニングにも力を入れた。

トバス県知事は、本件プロジェクトの取組に賛同し全面的に応援しており、県知事事務所では本プロジェクトで生産された加工食品や石鹸を購入しているのみならず、オリーブオイルのテースティングイベントにも応援出席している。本プロジェクトでNICCOは、地元住民や行政と一丸となり、また地元を代表する活動を展開しており、市民社会レベルでの国際協力の成功例を作りあげている。



オリーブ生産農家